

評価票 記入参考資料

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	修正は二重線の上に押印、修正テープ・液は使用不可、消せるボールペンの使用不可			受講生 氏名 事業所名 対象者		*事務局記入欄 担当者印 総合判定 合・否		
	月日 ※実施した月日を記入 時間 ※実施した開始・終了時間を記入			実施票と同時 開始時間 終了時間		演習修了の確認 5/11 12:00 12:30		
				(1)回目 5/12 13:02 13:10		(2)回目 5/15 13:00 14:05		
手順	評価項目				評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。				㊦	イ	ウエ	
	2 医師の指示書				㊦	イ	ウエ	
	3 対象者本人・				㊦	イ	ウエ	
実施	4 対象者本人が				㊦	イ	ウエ	
	5 必要物品、栄養剤を用意する。				㊦	イ	ウエ	
	6 体位を調整する。				㊦	イ	ウエ	
	7 注入内容を確認し、クレンメを閉めてから栄養剤を注入用ボトルに入れ、注入用ボトルを高いところにかける。 滴下筒に半分くらい満たし、滴下が確認できるようにする。				㊦	イ	ウエ	
	8 クレンメを緩め、経管栄養セットのラインの先端まで栄養剤を流して空気を抜き、クレンメを閉める。				㊦	イ	ウエ	
	9 胃ろうチューブの破損や抜けがないか、固定の位置を目視で観察する。 胃ろう周囲の観察を行う。				㊦	イ	ウエ	
	10 注入用ボトルを所定の位置につらし、胃ろうチューブの先端と経管栄養セットのラインの先端を、アルコール綿などで拭いてから接続する				㊦	イ	ウエ	
	11 注入を開始することを対象者に伝え、クレンメを滴下筒の滴下で注入速度を調整して、決められた注入開始時刻を記録する。				㊦	イ	ウエ	
	12 滴下中に、対象者に異常がないか、確認する。				㊦	イ	ウエ	
	13 滴下が終了したらクレンメを閉じ、経管栄養セットのラインをはずす。 カテーテルチップ型シリンジに白湯を吸い、胃ろうチューブ内に白湯を流す。				㊦	イ	ウエ	
	14 終了後しばらくは上体を挙上したまま、安楽な姿勢で待機する。				㊦	イ	ウエ	
	15 体位を整える。 必要時は、体位変換を再開する。				㊦	イ	ウエ	
	報告	16 指導看護師に対し、対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。				㊦	イ	ウエ
	片付け	17 使用物品の後片付けを行う。				㊦	イ	ウエ
	記録	18 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。				㊦	イ	ウエ
ア(手順通りにできた)個数合計⇒ 18					【評価者サイン】⇒			
「ア」合計数					15 18			

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

口腔内の喀痰吸引(通常手順)

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受 講 生	氏 名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。					
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。					合・否

回数 ※()内に実施回数を記入			演習修了の 確認	←実地研修 に入る前、す べて(ア)と なった日時を 記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入			/		/	/
時間 ※実施した開始時間を記入			:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」ようになってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 口の周囲、口腔内を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 使い捨て手袋をする。場合によってはセツシを持つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で口腔内を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 (単回使用の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 手袋をはずす。セツシを使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 体位や環境を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	23 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。 (経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないか確認する。)	アイウエ		アイウエ	アイウエ
24 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	25 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
片付け	26 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
	27 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
記録	28 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

<<指導看護師の方へ>>

口腔内の喀痰吸引(非侵襲的人工呼吸器装着)

受講生欄のみ受講生が記入
他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。		担当者印	総合判定		
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		合・否			
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。					

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の確認	←実地研修に入る前、すべて(ア)となった日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始時間を記入		:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となつてから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 口の周囲、口腔内を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 使い捨て手袋をする。場合によってはセ션を持つ。 (手袋をする前に、必要に応じて、速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。)	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 (乾燥法の場合)吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 口鼻マスクをはずす。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で口腔内を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 (単回使用の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 手袋をはずす。セ션を使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 口鼻マスクを適切な位置にもどし、適切な状態に固定(装着)する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	23 人工呼吸器が正常に作動していること、口鼻マスクの装着がいつも通りであることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
24 体位や環境を整える。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
25 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。 (経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないか確認する。)	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
26 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	27 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
片付け	28 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
	29 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
記録	30 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

鼻腔内の喀痰吸引(通常手順)

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生 氏名 事業所名 対象者	*事務局記入欄			
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。		担当者印		総合判定	
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。				合・否	
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。					

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の 確認	←実地研修に 入る前、すべ て(ア)となっ た日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始時間を記入		:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となつてから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 鼻の周囲、鼻腔内を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 使い捨て手袋をする。場合によってはセツンを持つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 (乾燥法の場合)吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で鼻腔内を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 (対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 (単回使用の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 手袋をはずす。セツンを使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 体位や環境を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	23 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。 (経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないか確認する。)	アイウエ		アイウエ	アイウエ
24 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	25 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
片付け	26 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
	27 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
記録	28 記実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

鼻腔内の喀痰吸引(非侵襲的人工呼吸器装着)

<<指導看護師の方へ>>
 受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		* 事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名			合・否
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※ () 内に実施回数を記入			演習修了の 確認	←実地研修に 入る前、すべ て(ア)となっ た日時を記入	() 回目	() 回目
月日 ※ 実施した月日を記入			/		/	
時間 ※ 実施した開始時間を記入			:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 鼻の周囲、鼻腔内を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 使い捨て手袋をする。場合によってはセッシーを持つ。 (手袋をする前に、必要に応じて、速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。)	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 (乾燥法の場合) 吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 口鼻マスクまたは鼻マスクをはずす。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で鼻腔内を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 (単回使用の場合) 吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器にもどす。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 手袋をはずす。セッシーを使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかどうかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 口鼻マスクまたは鼻マスクを適切な位置にもどし、適切な状態に固定(装着)する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	23 人工呼吸器が正常に作動していること、口鼻マスクまたは鼻マスクの装着がいつも通りであることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
24 体位や環境を整える。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
25 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状等を観察する。 (経鼻経管栄養を行っている場合、吸引後の口腔内に栄養チューブが出ていないかの確認)	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
26 人流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	27 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
片付け	28 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	29 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
記録	30 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ

ア(手順通りにできた)個数合計⇒

【評価者サイン】⇒

気管カニューレ内部の喀痰吸引(通常手順)

<<指導看護師の方へ>>規定回数実施後、全ての欄に

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名		合・否	
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の確認	←実地研修に入る前、すべて(ア)となった日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始時間を記入		:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	4 気管カニューレに人工鼻が付いている場合、はずしておく。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	5 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 気管カニューレの周囲、固定状態及び喀痰の貯留を示す呼吸音の有無を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 使い捨て手袋をする。場合によってはセツシを持つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 (乾燥法の場合)吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 吸引カテーテルの先端の水をよく切った後、吸引カテーテルの外側を、アルコール綿で先端に向かって拭き取る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で気管カニューレ内部を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 (単回使用の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 手袋をはずす。セツシを使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
23 体位や環境を整える。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
24 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状、気管カニューレ周囲や固定状況等を観察する。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
25 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	26 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
片付け	27 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
	28 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
記録	29 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

気管カニューレ内部の喀痰吸引(侵襲的人工呼吸器装着)

<<指導看護師の方へ>>
 受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名		合・否	
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の 確認	←実地研修に 入る前、すべて(ア)となった 日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始時間を記入		:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	4 気管カニューレに固定ヒモが結んである場合はほどいておき、少しコネクタを緩めておいてもよい。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	5 吸引の必要性を説明し、対象者の同意を得る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 吸引の環境、対象者の姿勢を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 気管カニューレの周囲、固定状態及び喀痰の貯留を示す呼吸音の有無を観察する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤で手洗いをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 使い捨て手袋をする。場合によってはセツンを持つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出し、吸引器に連結した接続管に接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 吸引器のスイッチを入れる。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 決められた吸引圧になっていることを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 (乾燥法の場合)吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。 (薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルの外側の薬液が残らないように、アルコール綿で先端に向かって拭き取り、吸引カテーテルと接続管の内腔を洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 吸引カテーテルの先端の水をよく切った後、吸引カテーテルの外側を、アルコール綿で先端に向かって拭き取る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 吸引開始の声かけをする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	16 人工呼吸器から空気が送り込まれ、胸が盛り上がるのを確認後、フレキシブルチューブのコネクタを気管カニューレからはずし、きれいなタオル等の上に置く。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	17 適切な長さまで挿入し、適切な吸引時間で気管カニューレ内部を吸引する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	18 吸引を終了したら、すぐに、フレキシブルチューブ先端のコネクタを気管カニューレに接続し、正しく接続できているか人工呼吸器の作動状況や状態を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	19 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	20 吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルと接続管の内腔を、洗浄水等で洗い流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	21 非利き手で、吸引器のスイッチを切る。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	22 (単回使用の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、破棄する。 (乾燥法の場合、薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを接続管からはずし、衛生的に保管容器に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	23 手袋をはずす。セツンを使用した場合は元に戻す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	24 対象者に吸引が終わったことを告げ、喀痰がとり切れたかを確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
25 人工呼吸器が正常に作動していること、気道内圧、酸素飽和度などを確認する。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
26 体位や環境を整える。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
27 対象者の顔色、呼吸状態、吸引物の量や性状、気管カニューレ周囲や固定状況等を観察する。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
28 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	29 指導看護師に対し、吸引物、吸引前後の対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
片付け	30 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
	31 保管容器や洗浄水等を適宜交換する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
記録	32 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

胃ろう又は腸ろうによる経管栄養(滴下)

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名			合・否
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の 確認	←実地研修に入る前、すべて(ア)となった日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始・終了時間を記入	開始時間	:		:	:
	終了時間	:		:	:

手順	評価項目	評価結果				
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ	
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
実施	4 対象者本人から注入の依頼を受ける。あるいは、対象者の意思を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	5 必要物品、栄養剤を用意する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	6 体位を調整する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	7 注入内容を確認し、クレンメを閉めてから栄養剤を注入用ボトルに入れ、注入用ボトルを高いところにかける。 滴下筒に半分くらい満たし、滴下が確認できるようにする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	8 クレンメを緩め、経管栄養セットのラインの先端まで栄養剤を流して空気を抜き、クレンメを閉める。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	9 胃ろうチューブの破損や抜けがないか、固定の位置を目視で観察する。 胃ろう周囲の観察を行う。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	10 注入用ボトルを所定の位置につるし、胃ろうチューブの先端と経管栄養セットのラインの先端を、アルコール綿などで拭いてから接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	11 注入を開始することを対象者に伝え、クレンメをゆっくりと緩める。 滴下筒の滴下で注入速度を調整して、決められた滴下速度で滴下する。 注入開始時刻を記録する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	12 滴下中に、対象者に異常がないか、確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	13 滴下が終了したらクレンメを閉じ、経管栄養セットのラインをはずす。 カテーテルチップ型シリンジに白湯を吸い、胃ろうチューブ内に白湯を流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	14 終了後しばらくは上体を挙上したまま、安楽な姿勢を保つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	15 体位を整える。 必要時は、体位変換を再開する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ	
	報告	16 指導看護師に対し、対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。		アイウエ	アイウエ	アイウエ
	片付け	17 使用物品の後片付けを行う。		アイウエ	アイウエ	アイウエ
	記録	18 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。		アイウエ	アイウエ	アイウエ
ア(手順通りにできた)個数合計⇒						
【評価者サイン】⇒						

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

胃ろう又は腸ろうによる経管栄養(半固形)

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名		合・否	
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の確認	←実地研修に入る前、すべて(ア)となった日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始・終了時間を記入	開始時間	:		:	:
	終了時間	:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 対象者本人から注入の依頼を受ける。あるいは、対象者の意思を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 必要物品、栄養剤を用意する。 カテーテルチップ型シリンジを使う場合は、半固形栄養剤をシリンジで吸い取っておく。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 体位を調整する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 胃ろうチューブの破損や抜けがないか、固定の位置を目視で観察する。 胃ろう周囲の観察を行う。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 胃ろうチューブの先端をアルコール綿などで拭き、胃ろうチューブと半固形栄養剤のバッグないし、半固形栄養剤を吸ったカテーテルチップ型シリンジをつなぐ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 注入を開始することを対象者に伝え、半固形栄養剤のバッグないしカテーテルチップ型シリンジの内筒を、適切な圧で押しながら注入する。必要時は加圧バッグを使用する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 注入中に、対象者に、異常がないか、確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 注入が終了したら、カテーテルチップ型シリンジに白湯を吸い、胃ろうチューブ内に白湯を流す。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 終了後しばらくは上体を挙上したまま、安楽な姿勢を保つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 体位を整える。 必要時は、体位変換を再開する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
報告	14 指導看護師に対し、対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
片付け	15 使用物品の後片付けを行う。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
記録	16 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

経鼻経管栄養

<<指導看護師の方へ>>

受講生欄のみ受講生が記入
 他は全て指導した看護師が記入すること

評価	ア	1人で実施できる。評価項目について手順通りに実施できている。	受講生	氏名		*事務局記入欄	
	イ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。実施後に指導をした。				担当者印	総合判定
	ウ	1人で実施できる。評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。その場では見過ごせないレベルであり、その場で指導した。		事業所名			合・否
	エ	1人での実施を任せられるレベルにはない。		対象者			

回数 ※()内に実施回数を記入		演習修了の確認	←実地研修に入る前、すべて(ア)となった日時を記入	()回目	()回目
月日 ※実施した月日を記入		/		/	/
時間 ※実施した開始・終了時間を記入	開始時間	:		:	:
	終了時間	:		:	:

手順	評価項目	評価結果			
準備	1 流水と石けんで、手洗いをする。	アイウエ	⇒シミュレーションで演習修了の確認を行い、全て「ア」となってから実地研修1回目へ進む	アイウエ	アイウエ
	2 医師の指示書を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	3 対象者本人・家族もしくは記録にて、体調を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
実施	4 対象者本人から注入の依頼を受ける。あるいは、対象者の意思を確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	5 必要物品、栄養剤を用意する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	6 体位を調整する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	7 注入内容を確認し、クレンメを閉めてから栄養剤を注入用ボトルに入れ、注入用ボトルを高いところにかける。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	8 滴下筒に半分くらい満たし、滴下が確認できるようにする。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	9 クレンメを緩め、経管栄養セットのラインの先端まで栄養剤を流して空気を抜き、クレンメを閉める。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	10 経鼻注入用ボトルを所定の位置につらし、経鼻胃管と接続する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	11 注入を開始することを対象者に伝え、クレンメをゆっくりと緩める。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	12 滴下中に、対象者に、異常がないか、確認する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	13 滴下が終了したらクレンメを閉じ、経管栄養セットのラインをはずす。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	14 終了後しばらくは上体を挙上したまま、安楽を保つ。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
	15 体位を整える。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
16 必要時は、体位変換を再開する。	アイウエ	アイウエ		アイウエ	
報告	16 指導看護師に対し、対象者の状態等を報告する。 ヒヤリ・ハット、アクシデントがあれば、あわせて報告する。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
片付け	17 使用物品の後片付けを行う。	アイウエ		アイウエ	アイウエ
記録	18 実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	アイウエ	アイウエ	アイウエ	
ア(手順通りにできた)個数合計⇒					
【評価者サイン】⇒					

※実施していない項目は評価結果欄を／で消して下さい。

ヒヤリハット・アクシデント報告書（介護職員・指導看護師記入）

※ 指導看護師からの指示があった場合、あるいはご自身がヒヤリとしたことやハッとしたことがあった場合のすべてについてご記入ください。

受講生所属事業所		受講生氏名	
指導看護師所属事業所等		指導看護師氏名	

[illegible]

